

社教ひろしま

特集

地域や家庭で共に学び支えあう社会の実現

に向けた教育の推進

～これからの社会教育委員に期待すること～



令和8年3月 No. 72

広島県社会教育委員連絡協議会

社教ひろしま 第72号

特集 地域や家庭で共に学び支えあう社会の実現に向けた教育の推進

～これからの社会教育委員に期待すること～

I 巻頭言	
地域と人をつなぐ「行動する社会教育委員」を目指しましょう!! -----	2
広島県社会教育委員連絡協議会会長 林 孝	
II 実態調査	
広島県の社会教育委員に係る実態調査について -----	4
広島県社会教育委員連絡協議会事務局	
III 実践報告 -----	11
① 家庭や子ども達の歩む道を照らし続けて	
大竹市社会教育委員 寺岡公章	
② 地域で学びを広げる社会教育の役割	
府中町教育委員会事務局社会教育課	
③ 竹原市における社会教育の取組	
竹原市教育委員会文化生涯学習課	
④ 共に学びあう支えあう社会の実現に向けて	
神石高原町未来創造課	
⑤ 「まちぐるみ想創塾 みんなでしゃべれ場」15年の軌跡	
広島市社会教育委員 岩元佳子	
IV 令和7年度広島県社会教育委員研修会報告 -----	21
V 表彰 -----	30
1 令和7年度全国社会教育委員連合表彰	
2 令和7年度広島県社会教育委員連絡協議会表彰	
VI 大会報告 -----	32
第67回全国社会教育研究大会岩手大会	
第47回中国・四国地区社会教育研究大会山口大会	
VII 令和7年度事業概要 -----	37
(資料) 広島県社会教育委員研修会 (旧広島県社会教育研究大会) 開催記録 -----	40

I 巻頭言

地域と人をつなぐ「行動する社会教育委員」を目指しましょう!!

広島県社会教育委員連絡協議会会長 林 孝

令和7年は、戦後80年という節目の年でした。戦時中は教化的性格を強めていた社会教育を人々の自発的な学習活動を基盤にするという本来の姿に立ち返ろうと、終戦後およそ2か月で、当時の文部省に社会教育局が復活し、昭和21年5月、新しい社会教育の理念に沿った社会教育委員の設置を促進する通知がなされました。



昭和24年に社会教育法が制定され、戦後の社会教育の振興に大きな役割を果たしてきました。その後の社会変化、社会教育の進展に伴い、適時に社会教育法の改正が行われ、今日に至っています。

さて、令和6年6月、文部科学省は中央教育審議会に対して「地域コミュニティの基盤を支える今後の社会教育の在り方と推進方策について」諮問し、同年7月、生涯学習分科会の下に「社会教育の在り方に関する特別部会」が設置されました。主な審議事項として以下が示されており、令和8年2月末までに15回の議論が重ねられています。

【主な審議事項】

- 1 社会教育人材を中核とした社会教育の推進方策
- 2 社会教育活動の推進方策
- 3 国・地方公共団体における社会教育の推進体制等の在り方

令和7年3月31日には審議事項1に関する意見の整理がなされ、地域のつながりの希薄化や担い手不足が社会課題となっている近年の状況を踏まえ、今後は、これまで以上に社会教育人材の育成や活躍促進が重要であると指摘されました。学校教育や福祉、防災、まちづくり等の多様な分野において活躍する人材が、社会教育士の取得等により、社会教育の知見を生かして地域の課題解決に向けた活動を展開できるようにすることや社会教育人材をネットワーク化することの重要性が示されました。

審議事項2では、様々な社会教育の「活動そのもの」に焦点を当て、例えば、学校と地域の関係性を一方向の支援ではなく共通の目標を持つ双方向のパートナーへと移行することや、公民館や図書館等の社会教育施設は、従来の学習提供機能に加えて、現代的な社会課題に対応した「多機能化」が求められていることに対して、地域コミュニティにおける実践を踏まえつつ、多様な主体との連携に

よる効果的な推進方策について議論されました。

審議事項3は現在も議論がなされています。直近の会議では、社会教育委員が果たす役割とは何かということが論点に追加されました。社会教育委員の職務は、主に意見表明や助言・指導であることが社会教育法第17条に明記されていますが、現在の社会の変化を踏まえ、自ら地域の課題等を把握し、改善に向けて行動する、いわゆる「行動する社会教育委員」になることの重要性について指摘されました。また、行政に対しては、社会教育委員の活躍促進を図っていく必要があるとの意見が出されました。

社会教育の在り方に関する特別部会での指摘のとおり、今後の社会教育の推進においては、「人」「場」「ネットワーク」が重要なキーワードとなります。そのなかで、社会教育委員は、多様な活動をつなぐハブとなり得る立場ではないでしょうか。

先に述べたように、社会教育委員の職務は社会教育法第17条に規定されています。社会教育委員には、学校教育や社会教育関係者、学識経験者、家庭教育の向上に資する活動を行う方々が委嘱されており、社会教育に関する優れた知見を社会教育行政に反映させていくことが期待されています。この点については、『社教ひろしま』No.69の巻頭言でも指摘したところです。社会教育委員は地域に密接して民主的にかつ多様に行われる社会教育行政を保障して、住民の意思を反映させようとする意図のもとに設けられていることを再確認したいと思います。したがって、社会教育委員には、社会教育に関する計画の立案や調査研究を行うなどの役割を果たしていくことが、より一層期待されていると言えます。

また、『社教ひろしま』No.69の巻頭言では、少子高齢化や学校の統廃合など、それぞれの市町が多様な課題を抱えるなかで、地域と学校の連携・協働の有用性は今後益々高まってくることも指摘しました。県内各市町の地域と学校が連携・協働した取組事例について情報を共有し、社会教育委員の学校教育への関わり方や連携・協働の方向性について学びをデザインするきっかけと勇気を得たいとも指摘しました。このような「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」といった視点を突破口として、自分たちの住む地域の社会教育の実情を把握すること、地域住民と行政との間に立って、住民の方の声を行政に反映していくこと、そして、地域住民と行政を「つなぐ」役割を再認識していきたいと思います。それらを通じて、例えば、「いい地域には、いい学校がある。いい学校は、いい地域をつくっていく。」ことを実現するような「行動する社会教育委員」として、地域住民とともに歩みながら、地域全体のウェルビーイングの向上に貢献していきましょう!!

Ⅱ 実態調査

広島県の社会教育委員に係る実態調査について

1 調査目的

広島県の社会教育委員の実態を把握し、市町支援策を検討するにあたって参考に
するため。

2 調査内容

(1) 市町担当者対象

- ① 社会教育委員の内訳（性別・年齢・構成分野）
- ② 会議の回数
- ③ 会議の内容
- ④ 社会教育委員の活動内容
- ⑤ 広島県社会教育委員連絡協議会に求める支援策

(2) 理事対象

- ① 社会教育委員として、あるいは社会教育委員以外の活動も含めた現在の活動
及び今後したいと思っている活動
- ② 広島県社会教育委員連絡協議会に求める支援策

3 調査期間

令和7年6月30日（月）～ 令和7年7月31日（木）

4 調査基準日

令和7年6月1日

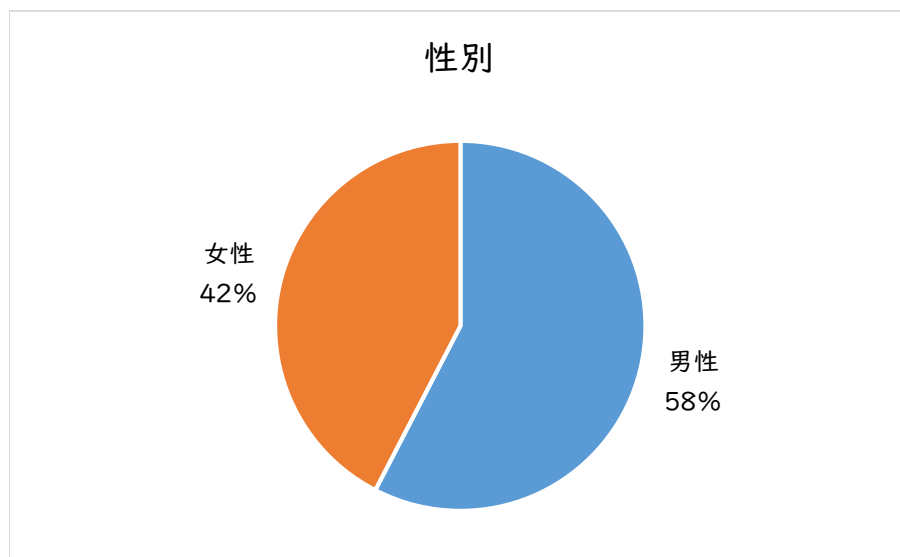
5 回答結果

- (1) 市町対象 22市町／22市町中（回答率100%）
- (2) 理事対象 22人／22人中（回答率100%）

市町社会教育委員数

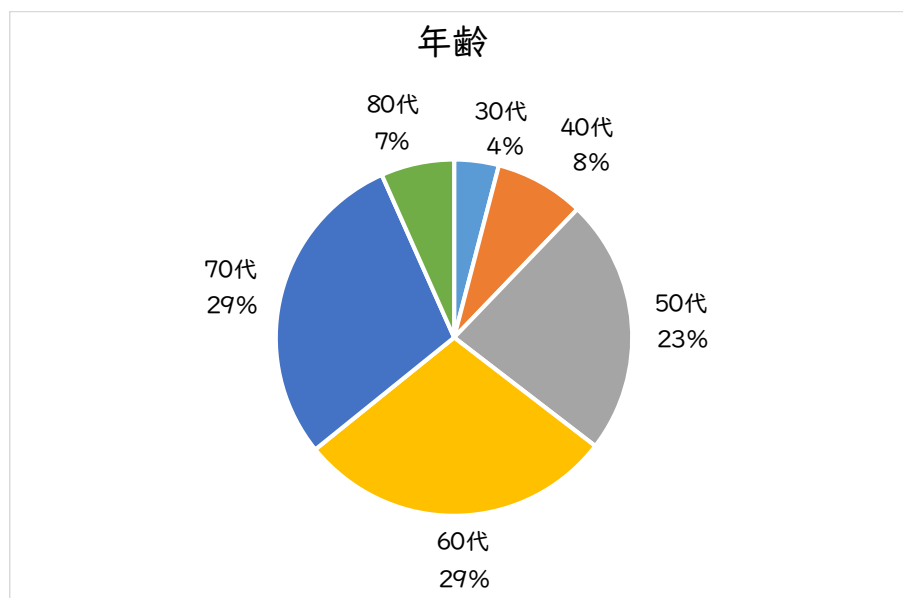
283 人

性別【N=283】



性別の比率は、男性が約 6 割、女性が約 4 割である。

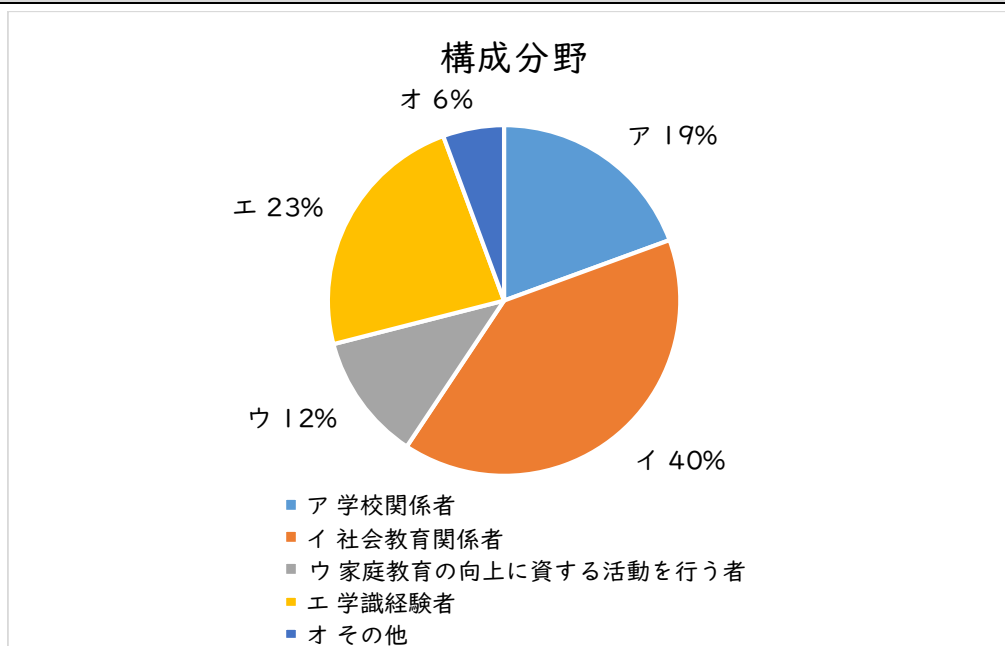
年齢【N=271】※



※ 安芸高田市は年齢を把握していないため、除く。

年齢は、60、70代が最も多く、次いで50代、40代、80代、30代である。
40～50代、60代、70代が約3割ずつを占めている。

構成分野【N=283】

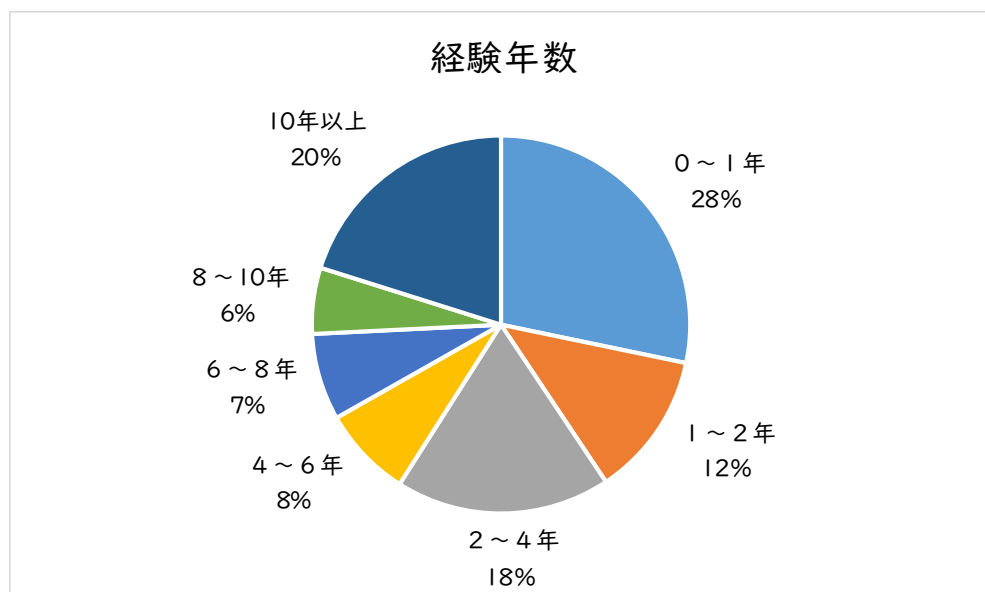


<社会教育関係者内訳>

図書館関係者・・・5人	公民館関係者・・・2人
団体関係者・・・83人	その他・・・23人

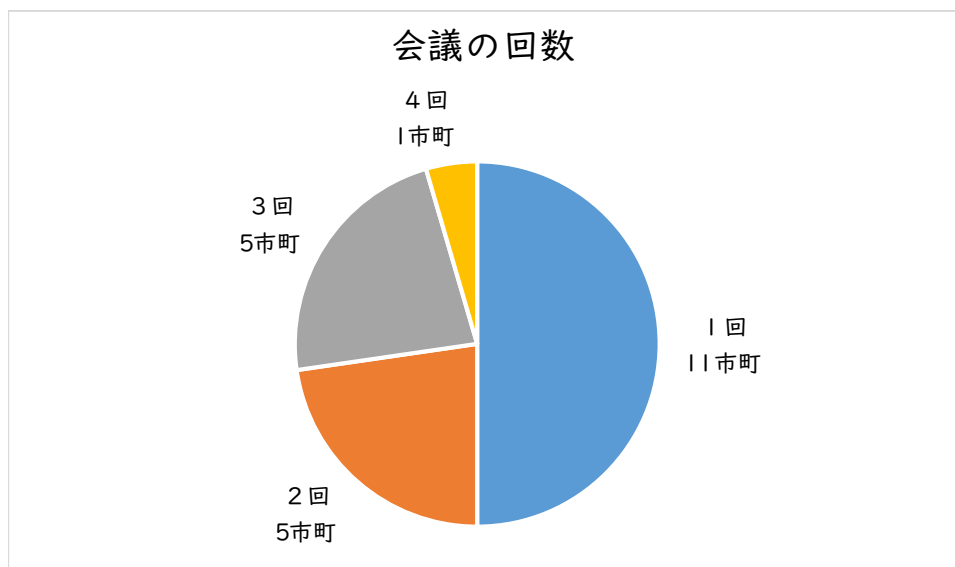
構成分野は、社会教育関係者が最も多く、全体の4割を占めており、中でも、団体関係者が多い。

経験年数【N=283】



経験年数は、0～1年の委員が約3割で最も多い。
0～4年以下の委員が全体の約6割、10年以上の委員が2割を占めている。

会議の回数【N=22】



<内訳>

1回・・・11市町

(呉市、竹原市、三原市、福山市、大竹市、江田島市、府中町、坂町、
安芸太田町、大崎上島町、神石高原町)

2回・・・5市町 (庄原市、東広島市、熊野町、北広島町、世羅町)

3回・・・5市町 (尾道市、三次市、廿日市市、安芸高田市、海田町)

4回・・・1市 (府中市)

会議の回数は、年1回(11市町)が最も多く、次いで2回(5市町)、3回(5市町)、4回(1市)である。

令和6年度の会議の内容

1. 生涯学習・社会教育行政の事業について説明、全体協議、意見交換等
2. グループ協議、ワークショップの実施

【例】

- ・「事業に関する広報の手法」、「地域おこし協力隊を活用した公民館の活性化」についてグループ協議を行った後、全体で共有した。(尾道市)
- ・ワークショップ「公民館であったら行ってみたい やってみたい講座やイベント」(熊野町)

3. 研修・視察等の実施

【例】

- ・「ウェルビーイング」をテーマに研修会を行った。(尾道市)
- ・「社会教育委員とは」研修(府中市)
- ・調査研究・視察活動と意見交換の機会設定(府中市)
- ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動に関する市内の取組状況について、学校訪問を実施した。(三次市)
- ・地域課題対応型研修(訪問型研修)「社会教育委員の役割」(海田町)

社会教育委員の活動内容(研修や事業等の内容)

1. 生涯学習・社会教育行政への助言、提案等
2. 県、市町、他団体等が主催する研修会・事業等への参加・参画
3. 研修・視察等の実施

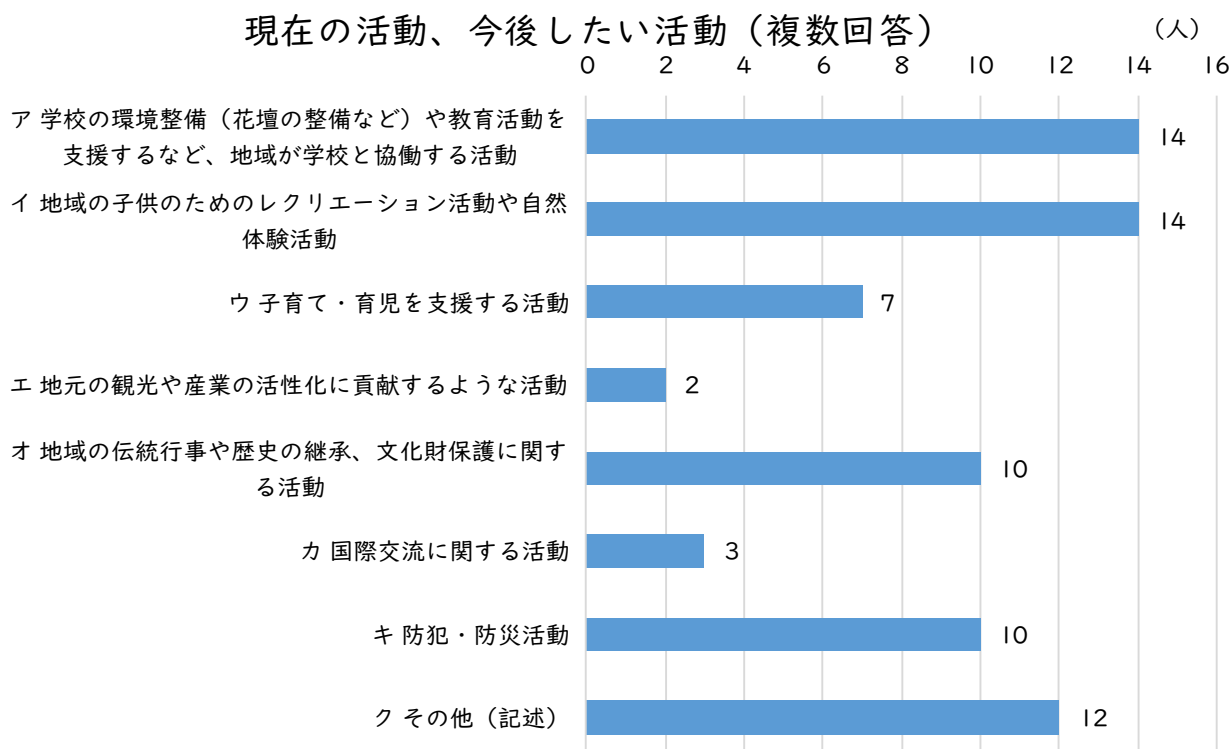
【例】

- ・幼児教育施設訪問と意見交換(府中市)
- ・「学びフェスタ」、「20歳を祝う会」、若者の自主的活動の視察と意見交換(府中市)
- ・先進地視察の実施(家庭教育支援部会)(三次市)
- ・学校訪問の実施(地域・学校連携部会)(三次市)
- ・社会教育に関する研修会を開催予定(R7)(廿日市市)
- ・県立生涯学習センターに依頼し、資質向上のために社会教育委員研修を実施(年1回)(江田島市)
- ・地域課題対応型研修(訪問型研修)を安芸郡4町の社会教育委員で実施予定(R7)(海田町)

社会教育委員の活動内容(研修や事業等の内容)は、生涯学習・社会教育行政への助言、提案等が最も多く、県、市町、他団体等が主催する研修会・事業等への参加・参画や研修・視察等を実施している市町もある。

理事の現在の活動、今後したい活動【N=22】

現在の活動、今後したい活動（複数回答）



（ク その他）

- ・ 社会福祉活動
- ・ 不登校の支援
- ・ スポーツ振興に関する活動
- ・ まちづくりに関する活動
- ・ 青少年健全育成活動
- ・ 交通安全活動
- ・ 地域清掃活動
- ・ 各種委員会委員（図書館協議会委員、公民館運営審議会委員、地域福祉計画の策定委員、民生児童委員、学校評価委員等）
- ・ 地域イベントへの協力
- ・ 地域住民が集えるカフェサロンの開催
- ・ 公共施設を活用したコンサートの企画・実施
- ・ 高齢者施設での読み聞かせ、老人クラブ活動等

理事の現在の活動または今後したい活動は、「学校の環境整備（花壇の整備など）や教育活動を支援するなど、地域が学校と協働する活動」及び「地域の子供のためのレクリエーション活動や自然体験活動」が最も多く、次いで「地域の伝統行事や歴史の継承、文化財保護に関する活動」及び「防犯・防災活動」となっている。

県社連に求める支援策（市町担当者）

1. 他市町の社会教育委員の活動に関する情報の提供（13市町）
（会議の開催頻度、活動内容、予算、課題、報酬額、対象となる活動等）
2. 市町が主催する研修会、中国・四国地区社会教育研究大会参加等への補助金（2市町）
3. 他県で作成・公開されている「社会教育委員の手引」の広島県版の作成及びこれを基にした研修の開催（1市町）
4. 会議・研修会のオンライン併用（1市町）

県社連に求める支援策（理事）

1. 他都道府県、他市町の社会教育委員の活動に関する情報の提供（11市町）
2. 市町が主催する研修会等に対する補助金、講師紹介（3市町）
3. 研修内容への要望
【例】
 - ・社会教育とは何かと言う概念を広く再認識できる方向性を出してもらいたい。
 - ・地域全体で防災に対する知識と実践をもっと進めていくことが必要と思う。
 - ・社会教育に関する地域の人材の育成のための勉強会・研修会の開催（社会教育委員以外を対象）
4. 他県で作成・公開されている「社会教育委員の手引」の広島県版の作成及びこれを基にした研修の開催（1市町）
5. 社会教育委員同士が交流できる場の提供（1市町）
6. 県主催社会教育委員研修会を教育事務所管内で実施（1市町）

県社連に求める支援策は、理事・市町担当者のどちらにおいても「他都道府県、他市町の社会教育委員の活動に関する情報の提供」が最も多く、次いで「市町が主催する研修会等への補助金、講師紹介」となっている。その他、「社会教育委員の手引」の広島県版の作成及びこれを基にした研修の開催や「社会教育委員同士が交流できる場の提供」等の意見があった。

Ⅲ 実践報告

①家庭や子ども達の歩む道を照らし続けて

大竹市社会教育委員 寺岡 公章

はじめに

この度の寄稿にむけて、「地域や家庭で共に学び支えあう社会の実現に向けた教育の推進」というテーマを頂戴しました。この中で、「家庭で」というところにアプローチすることの難しさを痛感しています。報告できる実践がないのです。

1. 行政の役割

大竹市では、家庭教育支援の事務分掌は生涯学習課にあります。課に何をしているか問うてみても、形にするのがなかなか難しい実情であるようです。どうも教育と養育が混同されているような、もっと言えば子育て支援と子どもの養育と家庭教育が一緒くたになっているような。そんな印象を受けます。

個人的には家庭教育＝家庭での躰(しつけ)と整理していますが、行政では家庭での教科教育の在り方にまで踏み込んで考えているような節があります。なぜシンプルな定義づけができないのか理由は分かりません。

家庭教育の重要性は教育基本法第10条第2項に明記されており、行政は家庭教育の支援活動を行うことが期待されていますから、家庭教育の自主性を尊重しつつ、自信と誇りを持って臨んでもらいたいものです。担当部署がやらなければどこもやらないのですから。

2. 子育て世帯の状況

一方、子育て世帯のご家庭にも目を向けてみます。教育や養育については、教育基本法その他、民法、児童福祉法、子ども・子育て支援法、こども基本法など、多くの法律が保護者の第一義的責任に言及しています。

夢や希望、期待、そして不安の入り混じる子育て期間。ほとんどのご家庭で我が子に立派な大人になって欲しいと日々邁進し、子ども中心の生活を送っておられる。その反面、責任所在を取り違えておられる？と見える保護者がおられるのも現実です。まあ、条文は日常で身近なものとは言えませんが当然と言えば当然です。それぞれの家庭が持つ様々な子育ての方針は、世に共通する

一定の価値観が底流にあるからこそ成り立つものであって、そうでなければ社会はぐちゃぐちゃになります。私権や多様性を認めるといえば聞こえはいいですが、公共の福祉を上書きすることがあってはなりません。時には、この公共の福祉という言葉さえ届いていないのではないかと胸が痛むことが起こる場合もあります。

3. 現場で感じること

国や自治体など、行政は上に行くほど教育と福祉を隔てて考えがちですが、逆に現場に近づくほど柔軟な人的交流を行うことができます。私たち社会教育委員にも、地域社会と家庭を結ぶ素養があります。日本中どこのまちでも、個々の委員は地域での実践活動の中心におられる方々ばかりだからです。それぞれが精力的な活動を続け、見事な成果を積み上げておられます。

現場には、時に一緒に活動する主任児童委員さんなど、家庭へのハードルを低くもって活躍しておられる方々もいらっしゃいます。私たちは、現場の一員としての経験や各分野ネットワークを生かした提言を、継続して訴えていかなければなりません。

おわりに

家族で仲良くしましょう。友達を大切にしましょう。ルールを守り人のためになることをしましょう。仕事や勉強を頑張りましょう。このような当たり前に目指すべき大人像が、言い方や伝え方次第でNGとされ炎上する世の中です。子ども達もどちらに向いて成長すればいいか迷うのは当然と言えます。せめて地域の身近な大人である私たち社会教育委員は、家庭や子ども達の歩む道を、勇気を持って照らし続けていきたいものです。こんな事に勇気が必要なことには苦笑いしかありませんが。

あとは生涯学習課の職員さんの異動を控えめにしてもらいたいですね。行政職員は 通常3年程度、長くて5年、早ければ1年で交代です。経験者ならともかく、他部門から来られた方に社会教育を語っても伝わらない。やっと話が通じるようになっても居なくなってしまう。社会教育論は庁内全ての部署に通じる理論ですから、人事担当の方にこそ社会教育士資格を取得してもらいたいです。いやいや、蛇足でした(笑)。

②地域で学びを広げる社会教育の役割

府中町教育委員会事務局社会教育課

1 地域で学び支えあうことの大切さ

少子高齢化が加速し、地域社会のあり方が問われる現代において、教育は単なる知識伝達を超え、地域全体を活性化させるための重要な要素となっています。また、人生100年時代と言われる現代において、生涯にわたる学びの重要性はますます高まっており、年齢や経験に関わらず、誰もが学び続けられる環境づくりを推進する必要があります。このような社会情勢において、本稿では、府中町の現状を踏まえ、これから社会教育委員に期待することについて考察します。

2 府中町の現状と課題

地域と学校の連携について、府中町では平成30年度から、すべての学校にコミュニティ・スクールを導入しています。毎日多くの保護者や地域のみなさんが学校に来られ、印刷、花壇づくり、校外学習の引率など、様々な形で学校運営に関わってもらっています。活動を通じて、地域全体で子どもたちの育成に取り組んでいるところですが、地域によって温度差があるのが現状です。今後は、町内全体での活動の平準化が課題となっています。



続いて、家庭での学びの支援について、府中町では文部科学大臣表彰を受けた家庭教育支援チーム「くすのき」を中心に家庭教育の重要性を広めています。様々な保育・教育機関などへの出前講座や各種イベントによる家庭教育の啓発を行っています。少数のチームメンバーの力によるところが大きいため、活動者を増やし、

無理なく持続していくことが将来的な課題です。

公民館活動について、来館者のニーズを聞きながら、需要の高い講座を実施しています。また、一部の空き部屋を開放することで、気軽に立ち寄れる公民館を実現し、講座の効果と相まって来館者が増えてきています。一方で、地域住民を主体とする新規の活動やサークルは伸び悩んでいるという課題があります。より開かれた使い勝手の良い公民館として、住民主体の生涯学習を支援していく必要があります。

3 社会教育委員に期待すること

地域や家庭で共に学び支えあう社会の実現は、一朝一夕にできるものではありません。地域行事や学習活動を通じて世代を超えた交流が生まれることで地域への愛着や当事者意識が育まれます。様々な分野で活躍されている社会教育委員のみなさんには、こうした学びの循環を丁寧につなぎ、広げていく「ハブ」としての役割を期待するところです。行政機関として、社会教育委員をはじめとする地域のみなさんと一緒にこれからも地域や家庭で共に学び支えあう社会の実現に向けた教育を推進してまいります。

③竹原市における社会教育の取組

竹原市教育委員会文化生涯学習課

1 はじめに

竹原市は、重要伝統的建造物群保存地区のある町並み保存地区やうさぎの島として有名な大久野島など、誇れる歴史と文化、自然を有するまちで、国内外問わず多くの観光客が訪れています。



本市では、「竹原市第6次総合計画後期基本計画（令和6年3月策定）」における、将来像である「“文教のまちたけはら”の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち」「自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち」の実現に向け、グローバル社会を生き抜く人材育成の取組とあわせて、人口減少が進む中、コミュニティ・スクールを軸とした学校、家庭、地域が連携し地域全体で子供の教育を支援する体制づくりが求められています。このような視点に基づき、本市の教育施策の取り組むべき方向性について、市と教育委員会が認識を共有し、施策を連携して推進することで、竹原市におけるウェルビーイングの向上につながることを願い、「竹原市教育大綱（令和6年度～令和10年度）」を策定しているところです。

社会教育委員については、現在13名が委嘱されており、学識経験者1名、学校教育関係者2名、社会教育関係者7名、家庭教育関係者3名で構成されています。

2 社会教育委員の活動について

前述の竹原市教育大綱の社会教育・生涯学習分野の実現のため、本市では、

社会教育委員からの意見を反映しながら毎年「竹原市社会教育・生涯学習推進ビジョン」を策定しています。また、令和6年度からこのビジョンの具体的な動きを明らかにした「竹原市社会教育・生涯学習推進ビジョンアクションプラン」を策定し、事業を進めているところです。

令和7年度には社会教育委員会議にて、広島県立生涯学習センター職員に講師を依頼し、社会教育委員の役割を再認識をするとともに、ワークショップにより地域の課題について意見交換を行いました。



3 これからの取組について

前項で紹介したワークショップにおいては、委員それぞれの立場からの視点で、学校教育・生涯学習・家庭教育等の活動を行っていく上で、課題と感じていること、その中で具体的に取り組める内容について活発な意見を出し合いました。社会教育委員は、地域の学習ニーズや教育課題を把握し、行政への助言・提案を行うとともに、学校運営協議会や地域学校協働活動と連携しながら、学校と地域をつなぐ重要な役割を担っていることから、今後、いただいた意見を参考に、令和8年度以降の「竹原市社会教育・生涯学習ビジョン」の策定を進めていきたいと考えています。

竹原市では今後も社会教育委員からの意見を聞く場を設け、その意見を施策に反映させながら、社会教育行政を推進していきたいと考えています。

④共に学びあう支えあう社会の実現に向けて

神石高原町未来創造課

1 はじめに

超スマート社会（Society5.0）の実現に向けた急速な技術革新等、将来の予測が困難な時代を迎える中で、中山間地域の自治体では、高齢化とともに過疎化が一段と進み、持続可能な町づくりが喫緊の課題となっています。

本町では令和7（2025）年度からスタートした新しい「神石高原町教育振興計画」をもとに、神石高原町の未来を担う人づくりのため、そして、何よりも神石高原町に暮らす人々の幸せのため、地域全体で学び合い、誰もがいきいきと暮らせる地域であるよう推進体制を整えて実現に取り組んでいます。

2 神石高原町社会教育委員会議と活動の状況

本町の社会教育委員は学校教育関係者、各種団体の代表者及び識見を有する専門家の10名で構成され、日々の活動の中で感じられる地域課題等について意見をいただいています。社会教育委員会議は年に1回の開催としていますが、各種研修会への参加や、協働支援センター、コミュニティ・スクールと連携した活動や委員相互の情報交換の場づくりを進めています。具体的な活動として、社会教育委員には、協働支援センターでの平和学習や学習支援、体験活動等の実施や、多文化共生をテーマにした人権学習会や講演会の開催等に携わっていただいています。



■協働支援センターでの平和学習



■協働支援センターでの学習支援



■協働支援センターでのものづくり教室



■協働支援センターでの体験イベント



■ヒューマンフェスタ 2025in 神石高原



■多文化共生をテーマにした人権学習会

3 これからの社会教育委員に期待すること

本町の社会教育委員は、それぞれの地域や活動分野で、課題の解決や学校教育の充実などをつなぐ「地域のコーディネーター」です。

委員の皆さんには学校や行政、地域の公民館活動等に積極的に関わり、幅広い情報交換を行いながら、地域の住民がより生きがいを感じ、心が豊かに生活を送れるよう活動いただいています。今後もそれぞれの地域で、日々の活動を通じて感じた課題等、地域の声を行政に届けていただきたいと思います。

⑤「まちぐるみ想創塾 みんなでしゃべれ場」15年の軌跡

広島市社会教育委員 岩元 佳子

1 二葉公民館における「二葉中学校区家庭教育フォーラム」の取組

広島市の公民館では、公民館学習を通じて家庭の教育力向上を支援するため、家庭教育講座を実施している。二葉公民館においても、地域の小・中学校のPTAと連携し講座を共催している。私は、平成21年度前期「二葉中学校家庭教育講座」に講師として関わる機会を得た。公民館担当者との対話を重ねる中で、小学校から中学校までの9年間を見通し、地域として家庭教育をどう支えていくかという視点が強まり、同年度後期には中学校区全体の小・中学生保護者を対象とした講座へと発展した。以来15年間にわたり、二葉中学校区（二葉中学校・尾長小学校・中山小学校・矢賀小学校）の保護者を対象とした対話型フォーラム「まちぐるみ想創塾 みんなでしゃべれ場」を継続して実施してきた。

2 学校・家庭・地域で学びあい支えあい、子どもたちを育む

小・中学校PTA合同講座という機会を生かし、座学で終わらせず、参加者同士が交流しながら学び合う講座として構成した。初年度は「対話で見つける自分の子育て」をテーマに、PTA役員と事前ワークを行い、当日の対話の土台を整えた。当日は、小・中学校の保護者が学年や学校の異なる5～6人のグループに分かれ、テーマに沿って対話を深めた。その際、安心して語り合えるよう、互いを否定せずに聴くことや、一人ひとりが発言できる進め方など、対話の約束を共有した。



この対話型の学びは、参加者から好評を得て、以後毎年、公民館の家庭教育講座担当者との内容を協議しながら、多様な参加者による少人数対話型ワークショップとして継続・発展させてきた。4年目からは、子育てを家庭の課題として捉えるだけでなく、学校・地域の視点も取り入れた。小・中学校の教頭、中学校の「まちぐるみ『教育の絆』プロジェクト」コーディネーター、青少年健全育成連絡協議会会長にも参加いただき、「学校」、「家庭」、「地域」のテーマに分かれて、それぞれが大切にしている関わりや思いを対話を通して共有した。会を重ねる中で、学区内すべての小・中学校から校長が参加するようになり、テーマに応じて（別表を参照）、社会福祉協議会、民生児童委員、市議会議員、子ども会、広島修道院（児童養護施設）、ボーイスカウト指導者、スクールカウンセラー等、多様な関係者へと参加の輪が広がった。なお、これらの関係者との調整・橋渡しは、公民館担当者が中心となって担ってくださった。

(別表) 15年間の実施内容

実施年度	タイトル
平成21年度	対話で見つける 自分の子育て 気づきと築きのワークショップ
平成22年度	笑顔のワークショップ
平成23年度	対話で見つける 9年間の育みとこれからの子育て
平成24年度	対話で見つける 絆のチカラ
平成25年度	まちぐるみで育む 子どもたちの生きる力・学ぶ力
平成26年度	子どもたちの「今」と「未来」を語る
平成27年度	小・中9年間の学びと育ちを見守るつながり
平成28年度	ココロの育ちざかりを応援するこどもとわたしのコミュニケーション
平成29年度	ともに育つ心・ともに育てる絆・ともに育てる未来
平成30年度	みんなでしゃべれ場 ～伸びる心を育むステップ
平成31年度	みんなでしゃべれ場 ～子どもの夢応援団
令和2年度	(コロナ禍で中止)
令和3年度	みんなでしゃべれ場 ～子どもたちの幸福な未来のために (オンライン)
令和4年度	みんなでしゃべれ場 ～子どもの心を育むコミュニケーション
令和5年度	みんなでしゃべれ場 ～“居場所”のチカラ
令和6年度	(PTA再編のため中止)

3 本フォーラムを継続実施する中での成果

(1) 保護者同士が“同じ地域で子育てする仲間”としてつながった

教頭をはじめ教職員や地域の方など、多様な立場の人と語り合うことで、学年・学校の枠を越えたつながりが生まれた。参加者からは、「たくさんの方と話せて、楽しく参考になった」、「悩みを共有できて安心した」といった声が寄せられた。

(2) 家庭・学校・地域の視点が交わり、子育てや学びを捉える見方が広がった

「生きる力とは何か」「なぜ学ぶのか」といったテーマを対話で深めることで、家庭内だけでは得にくい多様な視点に触れ、自身の子育てを見つめ直す契機となった。

(3) “まちぐるみの絆”を再認識し、行動につながるきっかけが生まれた

対話を通して、二葉中学校区で子育てをする安心感や期待が高まり、参加者からは「たくさんの方が地域で子どもたちを見守ってくれていることを改めて知った」、「子どもが中学生になるのが楽しみになった」という前向きな変化も語られた。

4 今後

本市の小・中学校においても、PTAの解散・休会や会員数の減少が進み、従来の形での家庭教育講座の実施が難しくなりつつある。一方で、本市では令和4年度から全ての小・中学校がコミュニティ・スクールとなり、学校運営協議会を設置して「地域とともにある学校づくり」を推進している。こうした変化を踏まえ、子どもたちの笑顔を中心に据え、学校と保護者・地域住民が協働し、公民館の力も借りて、対話の場づくりを軸に、地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた活動を今後も推進していきたい。

IV 令和7年度広島県社会教育委員研修会報告

【研修会概要】

- 1 趣 旨 広島県の社会教育の振興充実に向けて、広島県内の社会教育委員が一堂に会し、研修の場を共有することによって、相互の連携を深める。
- 2 テーマ 地域や家庭で共に学び支えあう社会の実現に向けた教育の推進
～これからの社会教育委員に期待すること～
- 3 主 催 広島県社会教育委員連絡協議会
- 4 共 催 広島県教育委員会、三原市教育委員会
- 5 日 時 令和7年6月5日（木）12:15～16:00
- 6 会 場 三原市本郷生涯学習センター（三原市本郷南六丁目25番1号）
- 7 対 象 広島県及び市町の社会教育委員、広島県教育委員会事務局及び市町教育委員会事務局（市町担当課等）の社会教育担当職員

8 日 程

時 間	内 容	来賓・講師等
12:15 12:50	[開会行事・表彰式] ・主催者挨拶 ・歓迎の言葉 ・表彰	広島県社会教育委員連絡協議会 会 長 林 孝 広島県教育委員会事務局 乳幼児教育・生涯学習担当部長 (兼)参与 重森 栄理 三原市教育委員会 教育長 安原 敏光 広島県社会教育委員連絡協議会表彰
	(休憩)	
13:00 13:20	行政説明	広島県教育委員会生涯学習課
13:20 14:30	[講演] 地域や家庭で共に学び支えあう 社会の実現に向けた教育の推進 ～これからの社会教育委員に 期待すること～	[講師] 岡山県立大学保健福祉学部 現代福祉学科 教授 近藤 理恵

		(休憩)
14:40 15:55	[事例発表・テーマトーク] 社会教育からのチャレンジ ～地域や家庭で共に学び支え あう社会の実現に向けて～	[登壇者] 長野県岡谷市教育委員会生涯学習課 生涯学習推進主幹 清水 浩史 長野県岡谷市社会教育委員の会議 関島 良治 山岸 みち子 今井 鈴子 廿日市市佐方市民センター 所長 加芝 洋二 [ファシリテーター] 岡山県立大学保健福祉学部 現代福祉学科 教授 近藤 理恵
15:55 16:00	アンケート記入・事務連絡	

9 内 容

(1) 講演演題：地域や家庭で共に学び支えあう社会の実現に向けた教育の推進

ーこれからの社会教育委員に期待することー

講 師：岡山県立大学保健福祉学部現代福祉学科 教授 近藤 理恵

〇はじめに

現代社会は、非常に不確実性が高く複雑で、未来が見通せない状況である。ドイツの社会学者ウルリッヒ・ベックは、この社会のことを「リスク社会」といい、科学技術の発展や貧富の格差拡大といったリスクを指摘している。フランスではこ



れをプレカリティという。このような状況下で、日本の子たちの精神的幸福度が低いというユニセフの調査結果は、深刻な問題として捉えるべきである。

イギリスの社会学者アンソニー・ギデンズは、「存在論的安心（不安なく生きていける感覚）」の重要性について提唱している。彼の理論によれば、たとえば、赤ちゃんの頃に何回泣いても親がそれに対応することを通じて、子供は存在論的安心の感覚を得るようになる。

そもそも私達にとって、社会教育にはどういう意味があるのかと考えた場合、社会教育によって、他者との信頼関係を構築し、存在論的安心を得ることができると言えるのではないかと考えている。

フランスの社会学者ピエール・ブルデューは、以下の三つの資本について述べている。

経済資本：金銭、不動産、物など、経済的な資産。

文化資本：言語能力、学歴、文化財、ハビトゥス（考え方、価値観、振る舞い方等）。

社会関係資本：他者との信頼関係。



ハビトゥスは、社会学の領域では極めて重要な概念。考え方、価値観、話し方等の私達の振る舞いの全体像を指す。習慣によって獲得された行動様式や生き方。

社会教育をブルデューのこの三つの資本から見た場合、社会教育によって「文化資本」と「社会関係資本」を増加させることができると考える。それは言い換えると、豊かなハビトゥスと、他者との信頼関係を構築することでもある。

○社会経済的背景と学力格差

平成25年度の文部科学省による全国学力学習状況調査の結果分析報告書「全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」によると、家庭の社会経済的背景（SES）と子供の学力の関係において、学習時間の影響は限定的であることが示されている。SESが高い家庭の子供は、家庭内での会話、書籍、文化施設への訪問、親の学歴への期待など、多様な学習機会を通じて学力を伸ばしていることが示唆されている。

このことから、社会教育を広く提供することで、SESに関わらず子供たちの「文化資本」と「社会関係資本」を増加させることが、学力格差の是正に繋がると考えられる。

○美術館と社会教育の可能性

・フランスにおける「Mission Vivre Ensemble（共存のミッション）」

2003年の11月に現在の文化省（当時の文化・通信省）の主導により、文化分野における格差をなくすこと（文化施設へのアクセス）を目的として制定された政策。ケ・ブランリ美術館、ルーブル美術館、オルセー美術館等、37の美術館（現在は約50の施設）が賛同し文化施設になじみの薄い市民との繋がりをつくるべくこのミッションに参画している。

ケ・ブランリ美術館での共存のミッションについて、学芸員にインタビュー調査した結果を次に述べる。

まず、学芸員が社会分野（社会福祉の分野）で活躍するボランティア、ソーシャルワーカー等と密接に繋がることで、文化施設になじみが薄い人と美術館を仲介する役割を果た

している。その際、ワークショップの無償提供や見学資料の提供、入館料の軽減・無料化を実施している。また、0歳児から参加可能なプログラム（赤ちゃんが自分で自分の五感に訴えかけるようなワークショップ）や、家族向けプログラム（サマーガーデン等）、一般の市民から状態の良いおもちゃを美術館に寄付してもらい、貧困層の子供たちに提供する等を実施している。

他にも、NPO（アソシアッション）との連携による、貧困層の子供たちへの学習支援（2022年は720団体が参画）や子供たちとの対話を重視したワークショップ、フランス語を学ぶ移民への支援等を行っている。

○日本の美術館における取組

日本では、フランスの「Mission Vivre Ensemble（共存のミッション）」のような政策は今のところないが、日本の美術館では、エドゥケーターによる教育普及活動が活発に行われている。



大原美術館では、対話型鑑賞プログラムを積極的に子供たちに実施している。対話型鑑賞とは、ニューヨーク近代美術館発祥のプログラムで、鑑賞者が作品について自由に意見交換し、他者の解釈を学ぶことを重視するものである。福武教育文化振興財団の支援により、全小学生を対象とした対話型鑑賞プログラムが実施されており、事前学習、美術館での鑑賞、事後学習まで連動している。このプログラムは、自分の気持ちを他者に伝えることや、人がどう思っているかを感じることを、そしてコミュニケーション力を高めることに繋がっている。

十和田美術館や奈義町美術館では、地域住民や子供たちが自由に美術館を利用できる機会を提供しており、ボランティアによる支援も盛んである。世田谷美術館では、アートクラスの卒業生がボランティアとして美術館のプログラムを支えている。学芸員・エドゥケーター以外のボランティアによる支援が重要であり、みんなを巻き込んで教育をしていくということが重要である。

○まとめと今後の展望

社会教育は、「文化資本」と「社会関係資本」を構築していく。それは美術館においては、美術館での社会教育を通じた豊かなハビトゥスと他者との信頼関係を構築する可能性を秘めている。フランスの「共存のミッション」のような、文化へのアクセスを促進する政策を日本でも展開したらどうか。また、非営利組織、ボランティア、学校、大学等と連

携し、子供だけでなく家族も一緒に美術館に行く等、家族全体を支えることも重要なのではないか。

こども家庭庁ができてから、18歳未満の子供だけでなく、若者も支援対象にする政策が展開されている。ヨーロッパやアメリカでは「ユース」が政策に盛り込まれることが一般的。日本ではあまり若者に焦点が当てられなかったが、これからは若者も対象とした社会教育を考える必要がある。不確実性の高い社会では、知識だけでなく、自分の考えを他者に伝え、独創的に考える力が不可欠である。子供や若者が自らの言葉で語ることを重視する社会教育が、今後一層求められる。

現在、文部科学省は、学校教育や大学教育においても、教員が一方的に講義するのではなく、子供や若者が自らの言葉で語ることを重視する教育の展開を進めている。美術館における教育活動も、そういった教育として捉えられており、報告書も出ている。実体験として、どんなに優秀な学生であっても、自分の考えを自分の言葉で的確に伝えられなければ、就職活動や社会生活において困難に直面するケースが見られる。そのため、「自分の言葉で伝える力」をつけていくことを意識しながら社会教育をすることが重要である。

フランスはバカンスの時間も期間も長い、受験戦争もない、子供が伸び伸びと暮らし、大人も余暇活動を楽しみながら暮らせるような社会。こういったアートを通じた実践等は日本における社会教育を考える上で、参考にできるのではないか。

○質問への回答と実践への示唆

【質問】

親や学校の先生、福祉関係者の美術館への意識向上について
美術館のアウトリーチについて

【回答】

尾道市の全ての美術館等で小学生は無料はとても素晴らしいこと。無料かどうかによって行けるかどうか非常に左右される。その上で、子供たちを美術館に連れていくアクセスの問題がある。そこで、



美術館へ子供を連れて行くことの意義を、学校の先生や福祉関係者に伝えるためのプログラムが別途必要。教育委員会へのアプローチや、関係者自身にプログラムを体験してもらうことが有効。アウトリーチ活動の観点からも、まずはプログラムの意義を普及させ、人々を美術館に連れて行くことから始めるしかない。一人でも多くの関係者が実践し、美

術館に連絡を取ってくれることを期待している。

(2) 事例発表・テーマトーク

テーマ：社会教育からのチャレンジ

—地域や家庭で共に学び支えあう社会の実現に向けて—

〈事例発表者〉

長野県岡谷市教育委員会生涯学習課 生涯学習推進主幹 清水 浩史

長野県岡谷市社会教育委員の会議 関島 良治

山岸 みち子

今井 鈴子

廿日市市佐方市民センター 所長 加芝 洋二

〈ファシリテーター〉

岡山県立大学保健福祉学部現代福祉学科 教授 近藤 理恵

近藤：この時間は「社会教育からのチャレンジー地域や家庭でともに学び支え合う社会の実現に向けてー」をテーマに、登壇者の皆様方から事例発表をいただいた後に意見交換をさせていただきたい。

【事例発表】成長樹(期)子育て実践ポイントの活用について

長野県岡谷市教育委員会生涯学習課 生涯学習推進主幹 清水浩史

長野県岡谷市社会教育委員 関島良治 山岸みち子 今井鈴子

○岡谷市の概要

長野県中央部、諏訪湖のほとりに位置。緑と湖に囲まれた風光明媚な町。製糸業、精密機械工業で栄え、「東洋のスイス」と呼ばれた。諏訪湖の御神渡り、天竜川、うなぎ料理などの食文化。

○岡谷市の社会教育委員

学校教育、社会教育、家庭教育の関係者、学識経験者で構成。「行動する社会教育委員」現場に足を運び積極的に意見交換。「自由な議



論」やわらかい雰囲気の中で自由に発言。年間6～7回の会議で活動テーマについて協議検討。2023年度の活動テーマは「成長樹（期）子育て実践ポイント」の活用。「おかや子育て憲章」（2002年制定）新しい時代に即した子育てを目指し、社会教育委員の要望により制定。制定20周年を機に、2023年度に実践ポイントの再改訂版を発行。

○成長樹（期）子育て実践ポイント

憲章を具現化するため、胎児期から中学生期までの子育てに関するポイントをまとめた小冊子。保育園、幼稚園、小学校の保護者などに配布。2023年度版は、スマートフォンでいつでも確認できるようQRコード付きカードも作成。

○動画制作による更なる活用

「成長樹（期）子育て実践ポイント」の周知と活用促進。社会教育委員による絵コンテ作成。委員が出演し、ケーブルテレビやYouTubeで公開。ロングバージョン1本、ショートバージョン2本の計3種類を作成。教育委員から「入りやすい」「心温まる」と好評。全国の子育てに悩む方々の一助となることを目指す。

○演出者・出演者からの感想

柔らかいイメージ、ジェンダー平等に配慮。委員の演技やナレーションに感銘。

緊張したが、和やかな雰囲気の中で緊張がほぐれ、委員との距離が縮まった。

CMのような手軽さで冊子を手にとってもらう工夫。広島の方々との繋がりにも感謝。

【事例発表】「出番」「チャレンジ」「承認」と「コンパッション」の可能性

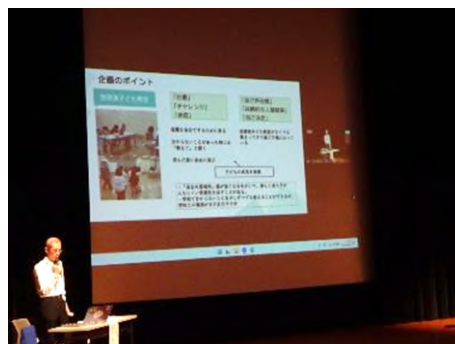
廿日市市佐方市民センター 所長 加芝 洋二

○自己紹介

市民センター勤務3年目。元ケアマネージャー、PTA会長、地域コーディネーターを経て現職。PTA活動等で「やらされ感」や「義務感」に疑問を感じ、自己決定やチャレンジのない活動は楽しくないという問題意識を持つ。大人が「自己決定」も「チャレンジ」もなければ、子供も喜ばないのではないかと考える。

○市民センターでの主な企画

【放課後子ども教室】地域学校協働本部の事業。子供たちが「出番」「チャレンジ」「承認」を通じて、自ら学び、遊び、成長する場を提供。



課題としては、一部の子供が排他的になる、専門的な教え方が難しい場合がある。

【なんにもしない合宿】市民センター独自の企画。日常の関係構築を目的とし、子供たちとのつながりから地域の担い手を育むことを目指す。

現状は、「なんにもしない」を謳いながらも、結果的に様々な活動をしてしまい、壁にぶつかっている。子供たちが自ら遊びや次にやりたいことを考える機会としたい。また、大人と子供の繋がりが持てない、保護者が「預けて帰る」モードになりがちなのが課題である。

【キキカン（防災事業）】市民センター独自の企画。子供だけでなく大人も防災意識を高めることを目的に、消防署OBのアイデアからスタート。消防、自衛隊、議会、市役所危機管理課、災害対策本部、自衛隊駐屯地などを訪問。「現場に行ってみて・聞いて・感じて」生の声を聞き、体験を重視。回覧版バインダーを活用し、低コストで実施。RCCアナウンサーの協力を得て、参加者と現場の意見交換の場を設けた。

中高生も対象だが、小学生の参加が圧倒的に多かった。参加した保護者が熱意を持ち、常連となる関係性が生まれるという思わぬ成果もあった。

裏テーマとして、「コンパッション（共に悲しみや苦しみを分かち合う）」の視点を取り入れ、支え手（公的機関等）も苦しみや大変さを抱えていることを理解し、支え合う関係性を目指す。今後は、医療機関（DMAT）、JRAT（リハビリ専門職）、ホームセンターでの防災グッズ紹介などを検討したい。

○企画全体を通しての考え方

「義務」と「負担」ではなく、「チャレンジ」と「自己決定」を促すことで、活動への満足度を高める。「コンパッション」の視点を取り入れ、互いに支え合う気持ちを共有する。「well-being（よりよく生きる）」の状態を目指し、受け入れ合う関係性を築く。

【トークテーマ】社会教育からのチャレンジ

～地域や家庭で共に学び

支えあう社会の実現に向けて～

○事例発表への感想

加芝：子育て中に余裕がなく、ゆっくり考える時間がなかった経験から、岡谷市の「子育て実践ポイント」のような、皆で共有できる具体的なものが全国に広がってほしいと強く感じた。子育て憲章などが具体化される良い事例を学ばせていただいた。



清水：加芝氏の多様な活動に感銘を受けた。岡谷市も青少年の担当がありコロナ禍で参加者が減少した野外活動等を再開するにあたり加芝氏の事例を参考に進めていきたい。

○地域づくりと協力者集め

課題「社会教育委員だけでなく、地域住民の賛同を得て協力者を集めることが重要」

加芝：企画が必ずしも成功するわけではないが、壁にぶつかりながらも日頃からの繋がりを広げることが大切だと感じている。異なるコミュニティを持つ人々をどう繋いでいくかが、地域づくりの鍵となる。

清水：社会教育委員の活動として、地域住民と直接関わり、協力を得られるようなテーマ設定を今年度以降は目指したい。

○文化的な生活空間の創造

加芝：まずは市民センターのような場所で、誰もが「ここにいてもいい」と思える「居場所」を作ることが重要。安心できる居場所があつてこそ、文化的な豊かさやウェルビーイングに繋がる情報発信が可能になる。

清水：多様な年代・人々を対象とした講座の実施や、美術館での土器作りワークショップなどを通して地元文化に触れる機会を増やし、地域文化への関心を高めていきたい。

○フロアからの意見交換

参加者（安芸高田市）

加芝氏の発表にあつた「コンパッション（共感）」と「子育て実践ポイント」における親の不安への共感、社会を明るくするために必要。文化的な体験が共感力を高めるといふ近藤氏の話にも共感し、活動に活かしていきたい。



参加者（大竹市）

岡谷市の社会教育委員が年間6～7回会議を実施していることに衝撃を受けた。会議の回数だけでなく、教育委員会や事務局との連携や実行力についてより詳しく聞きたい。

関島：会議の回数は、毎年テーマを決めて年間かけて練り上げる活動スタイルによるもの。事務局や教育委員会との良好な関係性が、活動の実現に繋がっている。

○まとめ

近藤：各発表は、地域と家庭の連携を深める社会教育の実践例として示された。地域に根差した多様な実践を今後も展開し、社会教育を推進していくことを期待する。

V 表彰

1 令和7年度全国社会教育委員連合表彰

一般社団法人全国社会教育委員連合は、社会教育の推進に貢献し、社教連の発展に功績のあった社会教育委員及び関係職員を表彰し、もって社会教育の振興に寄与することを目的にこの表彰を行っています。

本年度は、江田島市の社会教育委員として中心的な役割を務め、永年にわたり、広島県社会教育委員連絡協議会理事を務めてこられた白澤文恵氏が受賞されました。ここに、御功績をたたえ、永年にわたる取組に感謝申し上げますとともに、受賞の喜びの声を御紹介します。

「全国社会教育委員連合表彰にあたって」

江田島市社会教育委員会議議長 白澤 文恵

この度、令和7年度全国社会教育委員連合表彰を受賞させていただくこととなり、誠にありがとうございました。

平成17年2月から社会教育委員となり、平成27年3月からは社会教育委員会議議長として、20年以上に渡り、地域イベントへ参加させて頂いたり、個人的にも伝統文化を指導する事により、江田島市の社会教育の充実に取り組んでまいりました。

この栄誉は、地域住民の方をはじめとする、共に活動してきた委員の皆様、関係機関の皆様ののおかげと深く感謝しております。

長年にわたる活動の中で、社会教育の重要性を改めて実感しています。今後とも、これまで培ってきた経験を活かし、社会教育の振興に貢献できるよう、経験と知識を活かし、微力ながら精一杯努めてまいります。

改めて、この素晴らしい賞をいただき、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



2 令和7年度広島県社会教育委員連絡協議会表彰

広島県社会教育委員連絡協議会では、社会教育の推進に貢献し、同協議会の発展に顕著な功績のあった社会教育委員の方を毎年表彰しています。

本年度は、次の12名（8市町）の方々が受賞されました。

ここに、御功績をたたえ、永年にわたる取組に感謝申し上げますとともに、今後ますますの御活躍をお祈りいたします。

(敬称略)



古谷 悦子
(三次市)



松木 悦子
(庄原市)



上瀧 吹枝
(庄原市)



藤田 伸史
(庄原市)



田中 宏光
(府中町)



沖本 直樹
(安芸太田町)



和田 鮎美
(北広島町)



脇坂 裕介
(大崎上島町)



橋本 哲人
(世羅町)



古屋本 元
(神石高原町)



福場 卓郎
(神石高原町)

上記の方のほか、府中町の樽谷 和子 氏が受賞されています。

VI 大会報告

第 67 回全国社会教育研究大会岩手大会

府中町社会教育委員会議議長 田中宏光

令和 7 年 10 月 29 日から 31 日まで 3 日間、岩手県盛岡市で第 67 回全国社会教育研究大会岩手大会が「学びと絆で未来を拓く！社会教育のイーハトーブをめざして in いわて」をスローガンとし、「共に学び支えあう社会教育の実践～ウェルビーイングの実現に向けて～」を研究主題に開催され、全国から 900 名近い社会教育関係者が集まりました。

アトラクション「賢治と歩む、賢治と学ぶ、賢治と歌う」は、宮沢賢治の生涯と、農民とともに学び一緒に第四次元の芸術を創造しようとした賢治の



思いを劇団もしょこむ代表の小笠原 景子さんの「語り」と賢治ゆかりの楽曲を岩手県立南昌みらい高等学校音楽部の「合唱」で綴った舞台表現でした。

記念講演は国立天文台水沢 V L B I 観測所所長 本間 希樹氏が「岩手発 ブラックホール行き 銀河鉄道の旅」と題し、岩手・水沢の緯度観測所の誕生から国際プロジェクトであるイベント・ホライズン・テレスコープの日本代表としてブラックホールの観測に至るまで、岩手の地で行われてきた天文学研究について解説されました。同プロジェクトは 2019 年 4 月に楯円銀河 M87 の中心にあるブラックホールの写真を公開して世界中で大きなニュースになりました。また、2022 年 5 月には天の川銀河の中心にあるブラックホールの写真も公開されています。

研究者として若い人に伝えたいメッセージとして、「失敗を恐れずにチャレンジする行動力、その原動力は「好き」であること。好きなものを見つけ、積極的・能動的に行動することが大切だ」、「積極的かつ能動的に続けることは難しく根気を要すが、続けていると意外な発見があり、これは一般社会をより良くする原動力にもなる」と話されました。

また、社会教育関係者に向けては、「社会の担い手に必要なのは、能動的な行動力。何か面白いものを見つけるきっかけづくりや実践する場づくりができ

るような積極性を持つ人材を育成し、社会の一層の発展に寄与してほしい」と期待を示されました。

シンポジウムは、「共に学び支えあう社会教育の実践 ～ウェルビーイングの実現に向けた社会教育の役割とは～」をテーマに行われました。人と人とのつながりの希薄化や困難な立場にある人々に関する課題が顕在化・深刻化する現代社会における社会的包摂とその実現を支える地域コミュニティの重要性について論じられました。

武蔵野大学ウェルビーイング学部教授 前野 隆司氏がコーディネーターを務め、行政、学校、民間団体、それぞれの立場から3名のシンポジストによる実践例を踏まえた議論が行われました。「今後の社会教育は多様化し、多文化な人々が共に学ぶ場をつくるのが次の希望になります。そのためには固定観念を払拭し、お互いが理解し合い、熟議を重ねることが大切です。活動の際には楽しみながら取り組むことも必要で、「楽しい＝幸せ」という考え方のとおり、幸せは伝染し、不幸せも同様に伝わるため、幸せの条件を満たす仲間とともに、より良い社会を作りましょう」と締めくくられました。

分科会は第4分科会「人づくり・つながりづくり・地域づくり」、テーマは「インクルーシブ社会（共に生きる社会）を目指した社会教育の挑戦」に参加しました。持続可能な社会の創り手として期待される子どもに関する社会課題や教育課題が多様化・複雑化・複合化する中で、多様な主体との連携・協働による課題解決学習の展開やインクルーシブ社会（共に生きる社会）を目指した社会教育を基盤とした「人・つながり・地域づくり」の挑戦について、盛岡大学短期大学部教授 嶋野重行氏をコーディネーターとして4名の方が事例を発表しました。

その後のグループ討議では、多様化・複雑化・複合化した社会を共に生きるために、自分の常識に頼らず相手の立場を思いやる事が大切だと話し合いました。

今回、大会に参加させていただき、他の地域の社会教育関係者の方々と交流・情報交換を行う中で、改めて社会教育委員として地域の特性に合った取組を行うことの大切さを教えて頂きました。

このような機会をあたえていただき感謝申し上げます。

第 47 回中国・四国地区社会教育研究大会山口大会

尾道市社会教育委員会議議長 元廣 清志

令和 7 年 11 月 20 日、21 日の 2 日間、「第 47 回中国・四国地区社会教育研究大会」が山口市の「山口県総合保健会館」、「セントコア山口」で開催されました。

「ともに学び合い支え合う 『ふく(福)』あふれる社会づくりへ！！ ～『おいでませ ふくの国、山口』 今日から始める新たな社会教育～」を大会スローガンとし、1 日目は全体会、2 日目は会場が分かれての 4 つの分科会がありました。

初日の全体会オープニングのアトラクションでは、山口市立良城小学校合唱団による合唱とシンガーソングライターちひろさんによる山口県出身の金子みすゞの詩を作曲した歌、両者がコラボした合唱と参加者を引き付ける内容のものでありました。



基調講演は、文教大学人間科学部青山鉄兵准教授の「これからの社会教育を考える視点～近年の動向から～」と題した講演で、今の社会教育の動向、あり方をわかりやすく説明され、また、二次元バーコードから入力画面を開くことで、参加者がリアルタイムで意見、質問をコメントできるようになっており、飽きさせないものとなりました。

続いてのパネルディスカッションは、「湯田温泉地域で描く、次世代と地域の未来図～レノファ山口×行政×地域住民による共創プロジェクト～」と題して、宇部フロンティア大学短期大学部の伊藤教授をコーディネーターに、(株)レノファ山口の内山取締役、山口市湯田温泉パーク整備推進室の田中室長、湯田温泉共創プロジェクト参加の船津ほなみさん(現山口市職員)をパネリストに、レノファ山口、湯田温泉こんこんパークの取組や両者がコラボした話があり、地域を盛り上げていきたいとの思いが感じられ、まちづくりの具体例として参考になりました。

2 日目は「つながりづくり、地域づくり」がテーマの第 4 分科会に参加しました。

鳥取県の北栄町松尾中央公民館長による「ぼくラボからのまちづくり～新たな公民館から見える景色～」と題した事例発表、山口県周防大島町の美しい三蒲を創る会原田事務局長による「海や島々を臨む景観を再生し、島の豊かな自然環境を後世に伝えたい」と題した事例発表があり、それぞれ各縣市町の参加者と話す機会が設けられており、出身母体が違う人々と意見を交わすことで、大いに刺激を受けました。

今回の研究大会の内容を踏まえ、本市での社会教育委員の活動が、充実できるよう取り組んでいきたいと思えます。

1 はじめに

令和7年11月20日、21日に開催された第47回中国・四国地区社会教育研究大会山口大会に参加しました。今回も、知らないことや新しい発見があり、私にとって有意義な大会でした。余談ですが、この大会で、PBL（課題解決型学習。自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法）という言葉は初めて聞いた後、12月に、市内の高校の「10年後の庄原を支えるアイデア」をテーマとしたポスターセッションに参加する機会を得、なるほどとうなっところでした。

2 分科会

4つの分科会のうち、「社会教育委員の活動」をテーマにした第2分科会に参加しました。

事例発表の1つ目は、人口減少が進み人口1万人となった室戸市において、地域のデメリットを逆手に取った団体の活動についてでした。具体的には、①みんなで考えて、日常の中で「ちょっとした楽しみ」を提供しようとする「青空市」の開催、②子どもの「やりたい」を実現するため、中学校と地域が協力して行った「地産弁当プロジェクト」など、地域に暮らす人々がより良い暮らしをしようと協力し合いながら地域の課題を改善していくこと、そしてそれらをもとに次世代を育成していくことをめざした取組でした。

事例発表の2つ目は、人口11万人を超える防府市で、社会教育委員が生涯学習推進計画の取組みについて検証するというものでした。「ひとりひとりがきらめく人づくりの具体的な方策について」をテーマとして、人材育成の視点から「大人の学び」と「子どもの学び」について研究・報告されています。各種養成講座修了者や指導者バンク等の生涯学習ボランティアの周知や活用状況等の調査やアンケート調査、子どもを対象とした「ほうふみらい塾」の活動視察やアンケートなど地道な活動を基に、成果と課題をまとめた労作でした。

3 おわりに

基調講演の中で「社会教育はインフラ（社会基盤）」という話がありました。社会教育は道路、水道、電気などと同様に、社会の機能と発展に不可欠な基盤であり、私たちは、あらためて社会教育の価値を再認識し、将来の世代により良い社会を残すために、その維持・充実に資していくことが重要であると感じた大会でした。

広島県教育委員会事務局学びの变革推進部生涯学習課

2日目に行われた分科会のうち、第1分科会「学校・家庭・地域の連携・協働」において、一般社団法人まなびのみなと代表理事 取釜 宏行氏が広島県立大崎海星高校魅力化プロジェクトを紹介されました。これは、島で唯一（当時）の高校の統廃合の危機を契機に平成27年から始まった、学校と地域の連携・協働を柱とした取組です。

大崎海星高校では、学校と地域をつなぐ専門人材として、校内に「魅力化コーディネーター」を配置し、授業にとどまらず、放課後や週末の活動についても伴走することで、生徒と地域をつなぐ橋渡しを行っています。

また、高校生が運営するコミュニティカフェを開設したことで、学校外の場においても地域との交流を創出しています。高校生による商品開発や販売に加え、地域住民や小・中学生向けのイベントを開催することで、カフェを中心として、学校と地域が様々な場面でつながりつつあります。

学校と地域が連携・協働できる仕組みを構築したことで、地域住民や企業が学校教育に参画したり、地域イベントを協働で開催したりするなど、学び合う関係性ができ、地域全体の盛り上がりにつながっています。また、10年以上に渡ってプロジェクトを継続することで、卒業生が地域の立場から活動に参加するようになるという新しい関わりも生まれています。

この発表を踏まえて、会場では活発なグループ協議が行われました。まずは学校存続の危機感に端を発して、島全体で学校と地域の多様なつながりが実現している実績を賞賛する声が多く聞かれました。

グループメンバー同士が各自の活動について、悩みを共有したり成果を披露したりする中、今後どのように活動を進めていくかについて熱心な対話が繰り広げられました。

グループ発表の共有を経て、「高校に地域の人が入っていくのはハードルが高いというイメージがあるが、高校生にとっても多感な時期に多様な大人と良い関わり方をすることが大切である。そのためにも、地域側もアップデートしながら、相互理解に基づく連携ができるようになることが重要である。」という助言者のまとめがありました。

各参加者が学校教育と社会教育の壁を乗り越えて、ともに学び合い支え合う社会づくりを進めていこうと決意を新たに素晴らしい機会となりました。



Ⅶ 令和7年度事業概要

1 会議

(1) 第1回理事会

- 期 日 令和7年6月5日(木) 10:30～11:30
場 所 三原市本郷生涯学習センター
内 容 ・広島県社会教育委員連絡協議会役員選出について
・令和6年度歳入歳出決算について
・「社教ひろしま」第72号編集計画(案)について

(2) 第2回理事会

- 期 日 令和8年3月10日(火) 10:00～11:00
方 法 オンライン
内 容 ・令和7年度事業報告及び歳入歳出決算(見込)について
・令和8年度事業計画(案)について
・令和8年度歳入歳出予算(案)について

2 事業

(1) 令和7年度広島県社会教育委員研修会

- テーマ 地域や家庭で共に学び支えあう社会の実現に向けた教育の推進
～これからの社会教育委員に期待すること～
- 共 催 広島県教育委員会、三原市教育委員会
- 期 日 令和7年6月5日(木) 12:15～16:00
- 場 所 三原市本郷生涯学習センター(三原市本郷南六丁目25番1号)
- 内 容 ・開会行事・表彰式
・講演
演題:「地域や家庭で共に学び支えあう社会の実現に向けた教育の推進
～これからの社会教育委員に期待すること～」
講師:岡山県立大学保健福祉学部現代福祉学科 教授 近藤 理恵
- ・事例発表・テーマトーク
テーマ:「社会教育からのチャレンジ
～地域や家庭で共に学び支えあう社会の実現に向けて～」
事例発表者:長野県岡谷市教育委員会生涯学習課
生涯学習推進主幹 清水 浩史
長野県岡谷市社会教育委員の会議
関島 良治
山岸 みち子
今井 鈴子
廿日市市佐方市民センター
所長 加芝 洋二

(2) 「広島県の社会教育委員に係る実態調査」の実施

広島県の社会教育委員の実態を把握し、市町支援策を検討するにあたって参考にするため、市町担当者及び理事を対象に調査を実施
(調査基準日：令和7年6月1日)

(3) 大会への理事派遣

- ・第67回全国社会教育研究大会岩手大会
府中町 田中 宏光
- ・第47回中国・四国地区社会教育研究大会山口大会 (※令和7年度より開始)
尾道市 元廣 清志
庄原市 赤堀 幹義

(4) 「社教ひろしま」の発行

趣 旨 社会教育委員をはじめ、社会教育関係者の研修資料とするため、社会教育に関する論説、調査研究、実践事例等を内容として作成し、配付する。

名 称 「社教ひろしま No. 72」

構 成 ・巻頭言

広島県社会教育委員連絡協議会会長 林 孝

・実態調査

広島県社会教育委員連絡協議会事務局

・実践報告

大竹市、府中町、竹原市、神石高原町、広島市

・令和7年度広島県社会教育委員研修会報告

・表彰

令和7年度全国社会教育委員連合表彰

令和7年度広島県社会教育委員連絡協議会表彰

・大会報告

第67回全国社会教育研究大会岩手大会

第47回中国・四国地区社会教育研究大会山口大会

・令和7年度事業概要

発 行 令和8年3月

(5) 表 彰

令和7年度全国社会教育委員連合表彰

江田島市 白澤 文恵

令和7年度広島県社会教育委員連絡協議会表彰

三次市 古谷 悦子

庄原市 松木 悦子、上瀧 吹枝、藤田 伸史

府中町 樽谷 和子、田中 宏光

安芸太田町 沖本 直樹

北広島町 和田 鮎美

大崎上島町 脇坂 裕介
世羅町 橋本 哲人
神石高原町 古屋本 元、福場 卓郎

3 その他

(1) 全国社会教育連合関係資料 配付

- ・「社教連会報」(No. 97、98)
- ・機関誌「社教情報」(No. 93、94)

(2) 他団体との連携（事業の後援）

- ・第74回広島県公民館大会（令和7年10月3日）
主催：広島県公民館連合会
- ・第35回遊心書道会展（令和7年11月21日～令和7年11月23日）
主催：遊心書道会

(資料)

広島県社会教育委員研修会（旧広島県社会教育研究大会）開催記録

広島県社会教育研究大会					
開催年度	主管地区	開催会場	開催期日	研究主題・テーマ	
1	昭和56年	広島市	広島市中央公民館	10月14日(水)	社会教育の今日的課題と社会教育委員の役割
2	昭和57年	県西部	県立社会教育センター	11月5日(金)	社会教育委員の任務と役割を明らかにし、その活動の積極的な推進を目指して
3	昭和58年	海田	東広島市中央公民館	8月24日(水)	社会教育委員の任務と役割を明らかにして、その活動(青少年教育, 同和教育, 高齢者教育)を積極的に推進していくためにはどうすべきか
4	昭和59年	可部	安佐北区民文化センター	9月21日(金)	青少年の健全育成をすすめるための社会教育委員の任務と役割を明らかにし、その活動を積極的に推進していくにはどうすべきかを究める
5	昭和60年	尾道	三原市中央公民館	9月6日(金)	生涯各時期における社会教育を進めていくための社会教育委員の任務と役割
6	昭和61年	福山	福山市中央公民館	11月27日(木)	人権尊重を基底とした生涯教育の創造
	昭和61年	県 (中国・四国 地区大会)	広島市青少年センター 県立社会教育センター	6月12日(木) 13日(金)	学習社会への志向の高まりの中で、生涯にわたってともに学びあう社会教育の推進とそのあり方を考える
7	昭和62年	三次	三次市農協会館	11月27日(金)	人権尊重を基底にした生涯教育の創造
8	昭和63年	広島市	広島市青少年センター	11月25日(金)	人権尊重を基軸とした生涯学習の推進
9	平成元年	県西部	大竹市総合市民会館	11月6日(月)	人権尊重を基底にした生涯学習の推進
10	平成2年	海田	海田町海田公民館	11月6日(火)	人間尊重のゆきとどいた生涯学習の推進
11	平成3年	可部	芸北町民文化ホール	10月3日(木)	今、ひと・まちが動きだす
12	平成4年	尾道	三原リージョンプラザ	10月1日(木)	「学び」そして「行動」へ、人づくりはまちづくり
13	平成5年	福山	福山市市民会館	10月26日(火)	人権を尊重し、差別のない明るいまちづくりをめざす生涯学習の推進
14	平成6年	三次	三次市文化会館	11月15日(火)	「まちが輝き」「ひとが輝く」まちづくりはひとづくりから
15	平成7年	広島市 (兼中国・四国 地区大会)	広島市青少年センター	10月25日(水) 26日(木)	生涯学習社会の実現をめざした社会教育活動のあり方
16	平成8年	県西部	宮島町宮島観光会館	11月26日(火)	「学社融合」新しい学習空間の創造を!
17	平成9年	海田	豊栄町総合文化センター	10月14日(火)	生涯学習のまちづくり
18	平成10年	可部	田園パラッツォ	10月7日(水)	子どもたちを育てるまちづくり
19	平成11年	尾道	三原リージョンプラザ	9月7日(火)	学びで輝くひととまち
20	平成12年	福山	福山市北部市民センター	9月26日(火)	夢をはぐくみ、心を育てるひととまち
21	平成13年	三次	みよし公園 カルチャーセンター	10月2日(火)	21世紀に生きる青少年をはぐくむ社会教育

22	平成 14 年	広島市	アステールプラザ中ホール	10 月 2 日 (水)	まちぐるみで子どもを育むために
23	平成 15 年	県西部	大野町福祉保健センター	10 月 1 日 (水)	心豊かな地域づくり・ひとづくりをめざして
24	平成 16 年	呉・賀茂 (兼 中国・四 国地区大会)	呉市文化ホール	8 月 26 日 (木) 27 日 (金)	地域住民と行政が協働する社会教育の 在り方を考える
25	平成 17 年	芸 北	千代田開発センター	2 月 10 日 (金)	心豊かな子どもを育むひとづくり, 元気なまちづくり
26	平成 18 年	尾 三	しまなみ交流館	1 月 18 日 (木)	学び 高め 生かす生涯学習社会の実現 をめざして
27	平成 19 年	福 山	福山市神辺町文化会館	1 月 23 日 (水)	学び続けて豊かな人生 住みよい地域
28	平成 20 年	備 北	庄原市ふれあいセンター	10 月 17 日 (金)	生涯学習と地域づくり・まちづくり
29	平成 21 年	西 部	廿日市市さいき文化ホール	10 月 14 日 (水)	社会全体で子どもを育てる

広島県社会教育委員研修会				
開催年度	開催会場		開催期日	講演テーマ
1	平成 22 年	安芸府中生涯学習センター くすのきプラザ	6 月 1 日 (火)	社会教育行政推進における社会教育委員の役割
2	平成 23 年	まなびの館ローズコム (福山市生涯学習プラザ)	6 月 1 日 (水)	地域の教育力と社会教育
3	平成 24 年	大竹市総合市民会館	6 月 1 日 (金)	少子高齢社会対応と社会教育の役割
4	平成 25 年	尾道市しまなみ交流館他 (兼 第 36 回中国・四国地区 社会教育研究大会広島大会)	11 月 21 日 (木) 22 日 (金)	【研究主題】 持続可能な社会の構築に向けたこれからの社会教育の在り方
5	平成 26 年	安芸太田町 川・森・文化・交流センター	6 月 3 日 (火)	東日本大震災と社会教育
6	平成 27 年	三次市民ホールきりり	6 月 2 日 (火)	おの 100 挑戦隊～感動創造の旅 ～想いがつながる 100 km 完歩～
7	平成 28 年	東広島芸術文化ホールくらら	6 月 1 日 (水)	つながりが創る豊かな家庭教育支援を目指して ～今、社会教育委員にできること～
8	平成 29 年	福山市まなびの館ローズコム	6 月 1 日 (木)	地域の教育力を高める社会教育委員の役割 ～子供の学びや育ちの支援を通じた地域づくり～
9	平成 30 年	はつかいち文化ホール さくらびあ	6 月 1 日 (金)	子供の貧困と社会教育
10	令和元年	竹原市民館ホール	6 月 5 日 (水)	人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の在り方
11	令和 2 年	安芸高田市民文化センター	-	(※開催延期)
12	令和 3 年	(オンライン)	8 月 24 日 (火)	学校・家庭・地域が連携・協働した地域 づくりの実現に向けて
13	令和 4 年	広島国際会議場 (※)	10 月 27 日 (木) 28 日 (金)	【研究主題】 これからの時代を見据えた学びのデザイン ～ニューノーマル時代における社会教育の在り方～

(※) 第 64 回全国社会教育研究大会広島大会 (兼) 第 44 回中国・四国地区社会教育研究大会

14	令和5年	府中市文化センター	6月5日(月)	これからの時代を見据えた社会教育委員の在り方 ～全国大会をふり返り、今、私たちにできること～
15	令和6年	呉市役所	6月5日(水)	ウェルビーイングの実現と社会教育委員の役割 ～次世代を担う青少年の育成を通して～
16	令和7年	三原市本郷生涯学習センター	6月5日(木)	地域や家庭で共に学び支えあう社会の実現 に向けた教育の推進 ～これからの社会教育委員に期待すること～

社教ひろしま 第72号

発行 令和8年3月

編集及び発行機関

広島県社会教育委員連絡協議会

会長 林 孝

所在地 広島市中区基町9番42号

(広島県教育委員会事務局学びの变革推進部生涯学習課内)